

平成 24 年 4 月 25 日	病害虫発生予報 5 月号	茨城県病害虫防除所 茨城県植物防疫協会
---------------------	-------------------------------	------------------------

水稲の植え付けが始まります。水田に農薬を使用した時は、7日間止水し、成分の流出防止や防除効果の向上に努めましょう。

＜ 目 次 ＞

I. 今月の予報	
【注意すべき病害虫】	
麦類：赤かび病	1
ナシ：黒星病	1
促成・半促成ピーマン：うどんこ病，アザミウマ類	2
促成トマト：灰色かび病	3
【その他の病害虫】	3
水稲，ナシ，促成ピーマン，促成キュウリ，メロン	
【防除所レポート】：麦類赤かび病	4
【防除所レポート】：予報の見方	5
トマト黄化葉巻病	7
II. 今月の気象予報 8	
<p>水田において農薬を使用するときは、農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項等を確認するとともに、止水期間を1週間程度とすること。</p> <p>最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)で確認することができます。</p>	
<p>詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。</p> <p>茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445</p> <p>予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。</p> <p>ホームページアドレス http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/ (ホームページをリニューアルしました)</p>	

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

麦 類

1. 赤かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
やや遅い～遅い	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 農研速報(4月11日, 4月16日発表)によると, 農林61号の出穂期は, 水戸市で平年より4～7日遅く, 龍ヶ崎市で平年より5～10日遅くなると予想されている。
- ② 気象予報によると, 向こう1か月の気温は平年並か高く, 降水量は多いと予想され, 発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 播種時期や麦種によって防除適期が異なるので, 圃場ごとの生育状況をよく確認し, 適期に必ず薬剤散布を行う。防除適期及び薬剤については, 4ページの防除所レポートを参照する。
- ② 本病原菌は, 小麦及び六条大麦では開花期から10日程度, 二条大麦では穂から蒴が押し出されてくる時期(穂揃い期の10日後頃)に最も感染しやすい。出穂期以降に降雨が続き, 平均気温が18～20℃以上になると本病の発生が多くなる。発病の好適条件が続く場合は, 1回目の薬剤散布7～10日後に2回目の散布を行う。2回目の散布を実施する際は, 薬剤耐性菌の発生を防ぐため, 系統の異なる薬剤を散布する。
- ③ 倒伏や収穫の遅れにより発生が助長されるので適期収穫に努める。含水率の高い麦を収穫した場合, 袋の中で本菌が蔓延することがあるので, 収穫後は時間をおかず適切な乾燥・調製を行う。
- ④ グレーダーによる粒厚選別(2.4mm以上)は被害粒の除去に有効である。
- ⑤ 被害残渣やイネ科雑草は翌年の伝染源となるので, 土壌中にすき込んで腐敗させる。

ナ シ

1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
遅い	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 4月下旬現在, 発病果そう率は平年並～やや低い。
- ② 「幸水」の開花は平年より1週間程度遅れているため, 本病の発生時期も遅れていると考えられる。
- ③ 昨年10月下旬の調査で, 秋型病斑の発病度は平年よりやや高く, 発生地点率は平年より高かったため, 菌の越冬量は平年よりやや多いと予想される。
- ④ 笠間市(園芸研究所圃場内)では, 4月12日より子のう胞子の飛散を確認した。
- ⑤ 気象予報によると, 向こう1か月の降水量は平年より多く, 日照時間は平年並か少ないと予想され, 発生を助長する条件である。

(ナシ 黒星病 続き)

[防除上注意すべき事項]

- ① 果そう基部の病斑は葉や果実への伝染源となるため、見つけ次第除去し、園外に持ち出して適切に処分する。また、園内に落葉が残っている場合は早急に落葉を集め、土中深く埋める。
- ② 開花前後の DMI 剤散布は、黒星病を防除する上で特に重要であるので、圃場をよく観察し、ナシの生育に合わせて適期に確実に実施する。
- ③ 薬剤散布は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

促成・半促成ピーマン

1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 4月下旬現在、発病度、発生地点率ともに平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると防除が困難になるため、発生が少ないうちに防除を徹底する。
- ② 罹病部は新たな伝染源となるため、病斑の多い葉は取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう、十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤耐性菌の発生を防ぐため、系統の異なる薬剤を散布する。

2. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い(促成ピーマン)	鹿行地域
	やや多い(半促成ピーマン)	

[予報の根拠]

- ① 4月下旬現在、促成ピーマンでは寄生花率、被害果率ともに平年より高く、半促成ピーマンでは寄生花率は平年より高く、被害果率は平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。また、各種ウイルス病を媒介するので注意する。
- ② 薬剤は、薬液が葉裏や花にもかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、系統の異なる薬剤を散布する。
- ③ 天敵を導入しているハウスで薬剤防除をする場合、天敵への影響に十分注意する。

促成トマト

1. 灰色かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 4月下旬現在、発病果率、発病株率ともに平年より高く、発生地点率は平年よりやや高い。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の降水量は平年より多く、日照時間は平年並か少ないと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハウス内が多湿になると発生が助長されるので、換気、送風、暖房等によりハウス内の湿度を低く保つ。特に今後気温の上昇にともない、暖房機の稼働が少なくなるので、ダクト送風を行う等、除湿対策に努める。
- ② 花落ちが悪く残った花卉や罹病部は早急に取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。
- ④ 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、系統の異なる薬剤を散布する。
- ⑤ 薬剤散布は、薬液が乾きにくくなる午後からは行わず、晴れた日の午前中に行う。また、曇雨天が続き薬液が乾きにくい場合は、くん煙剤を利用する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
水稲	イネミズゾウムシ	発生時期: やや遅い 発生量: —	4月下旬現在、活動開始期は平年よりやや遅い。本田での生息数が最高に達する時期は、県南・県西地域では5月下旬頃、県北・県央・鹿行地域で5月下旬～6月上旬と予想される。
ナシ	輪紋病	発生量: —	4月下旬現在、一部圃場で「いぼ皮病斑」が見られる。枝幹に形成された「いぼ皮病斑」は伝染源となるので、削り取り、保護剤を塗布する。
	ナシヒメシシクイ	発生量: 平年並	4月下旬現在、平年並の発生である。コンフューザーNを使用する場合は、5月中旬までの早い時期に150～200本/10a設置する。
ピーマン 促成	斑点病	発生量: やや多い	4月下旬現在、平年よりやや多い発生である。
キュウリ 促成	アザミウマ類	発生量: やや多い	4月下旬現在、平年よりやや多い発生である。
メロン	菌核病	発生量: 平年並	4月下旬現在、平年並の発生である。

麦類赤かび病の防除を徹底しましょう！

麦類赤かび病の防除適期は、小麦では開花始期～開花期(出穂期の7～10日後)、六条大麦では出穂～穂揃期に開花を確認した時(出穂期の3日後)、二条大麦では穂揃期の10日後頃に穂から葯が出ているのを確認した時である。

表1及び表2に、防除所の調査圃場及び農業研究所(水戸市、龍ヶ崎市)における予測出穂期と防除適期を示した。表3に示した薬剤を参考に、適期に効果的な防除を実施する。

表1 防除所の巡回調査圃場における幼穂長から予測した出穂期と赤かび病の防除適期
(平成24年4月23日現在)

麦種	調査地点(地域)	播種期	品種	幼穂長(mm) (調査日)	予測 出穂期 ¹⁾²⁾	予測 防除適期 ³⁾
六条 大麦	那珂市(県央)	11月14日	マサカドムギ	32.6 (4月19日)	4月25日	4月28日頃
	つくば市(県南)	11月25日	カシマムギ	15.4 (4月16日)	4月29日	5月2日頃
	筑西市(県西)	12月10日	カシマムギ	7.8 (4月16日)	5月6日	5月9日頃
小麦	つくば市(県南)	11月16日	農林61号	14.6 (4月16日)	5月1日	5月8～11日頃
	筑西市(県西)	12月12日	農林61号	4.5 (4月17日)	5月12日	5月19～22日頃

- 1) 出穂期の予測は平成18年度普及に移す成果(農業研究所)の計算式を利用した。
- 2) 予測の際、平均気温は、調査日の前日までは各調査地点付近のアメダス観測所(水戸、つくば(館野)、下館)の実測値を利用し、調査日以降は同観測所の平年値(1981～2010年)を利用した。
- 3) 予測防除適期は、六条大麦は出穂期3日後、小麦は出穂期7～10日後とした。
※予測値は現時点での計算値であり、今後の気象条件等によって変動する可能性もあるので注意する。

表2 農業研究所(水戸市、龍ヶ崎市)における幼穂長から予測した小麦の
出穂期と赤かび病の防除適期

地点	予測 実施日	播種期	品種	予測 出穂期	予測 防除適期
水戸市	4月9日	11月4日	農林61号	4月30日	5月7～10日頃
		11月21日		5月9日	5月16～19日頃
龍ヶ崎市	4月13日	11月9日	農林61号	4月24日	5月1～4日頃
		11月24日		5月3日	5月10～13日頃

※出穂期は、農研速報(4月11日、4月16日発表)より引用し、防除適期を表1と同様に予測した。

表3 麦類赤かび病に効果のある主な薬剤(平成24年4月11日現在)

薬剤 系統名	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数 - 本剤の使用回数	対象麦種	有効成分	無人ヘリでの 登録の有無 ¹⁾
DMI 剤	シルバキュアフロアブル	2,000倍	14-2	大麦	テブコナゾール	有
			7-2	小麦*		
	チルト乳剤25	1,000 ～2,000倍	21-1	大麦	プロトコナゾール	有
			3-3	小麦		
ワークアップフロアブル	2,000倍	14-2	大麦* 麦類* (大麦を除く)	メトコナゾール	無 ²⁾	
ストロ ビルン系	ストロビーフロアブル	2,000 ～3,000倍	14-3	麦類 (小麦を除く) 小麦*	クレスキシメチル	無
ベンゾ イミダゾール系	トップジンM水和剤	1,000 ～1,500倍	30-3 14-3	麦類 (小麦を除く) 小麦*	チオファネートメチル	無 ³⁾

農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載されている使用方法・注意事項等を確認のうえ、周辺作物への飛散に留意する。

- 1) 無人ヘリ散布を行う場合は、希釈倍数や収穫前日数等が異なるので十分注意する。
- 2) ワークアップフロアブルと同一の有効成分であるワークアップS乳剤は麦類で無人ヘリの登録有り。
- 3) トップジンM水和剤と同一の有効成分であるトップジンMゾルは無人ヘリで登録有り。
※印を付けた薬剤の麦種ではブームスプレーヤーによる専用ノズルを用いた少量散布も可能である。登録内容は別途確認する。

病害虫発生予報の見方について

病害虫防除所では、向こう1か月の病害虫の発生を予想した病害虫発生予報を毎月発表しています。予報の作成にあたっては、圃場巡回調査や病害虫防除員の情報等による現地における病害虫の発生状況、フェロモントラップ等による害虫の発生状況を過去のデータと比較しながら、向こう1か月の気象予報等を参考にして作成します。ここでは予報をご理解いただくために、予報の見方について説明しますので参考にして下さい。

1. 予報の構成

予報は、向こう1か月の間に多発生が懸念され警戒すべき病害虫や、例年その月に発生が問題となる病害虫について記載した「注意すべき病害虫」と、「注意すべき病害虫」ほどではないが、例年より発生が多い等注意を要する病害虫を記載した「その他の病害虫」で構成されます。その他に、調査結果等について解説等を記載した「防除所レポート」を掲載する場合があります。

○注意すべき病害虫

例)

イチゴ

予報の対象地域

1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
やや早い	多い	県下全域

向こう1か月間の発生予報を、発生時期と発生量の「平年値」との対比により予報します。発生時期は、平年より「早い(6日以上)」、「やや早い(3~5日)」、「平年並」、「やや遅い(3~5日)」、「遅い(6日以上)」の5段階、発生量は、「多い」、「やや多い」、「平年並」、「やや少ない」、「少ない」の5段階で表記します。発生時期や発生量を特定しない場合は、「-」で表記します。

[予報の根拠]

- ① ○月下旬現在、被害葉率、発生地点率ともに平年より高い。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

予報を推定した根拠を記載します。圃場巡回調査やフェロモントラップ等への誘殺状況等に基づく現在の発生状況、予想される気象条件が対象病害虫に及ぼす影響等について記載しています。

[防除上注意すべき事項]

防除を行う際に、注意すべき事項等について簡潔に記載しています。

- ① ハダニ類は増殖が速いので、発生が少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤防除の際は、薬液が葉裏や葉柄にも届くよう、十分な量を丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、系統の異なる薬剤を散布する。
- ③ ミツバチ導入後は、薬剤のミツバチへの影響に十分注意する。

病害虫発生予報の見方について(続き)

○その他の病害虫

主に発生量に基づいた発生予想について記載します。発生量や発生時期については、注意すべき病害虫と同様に各5段階で表記します。

例)

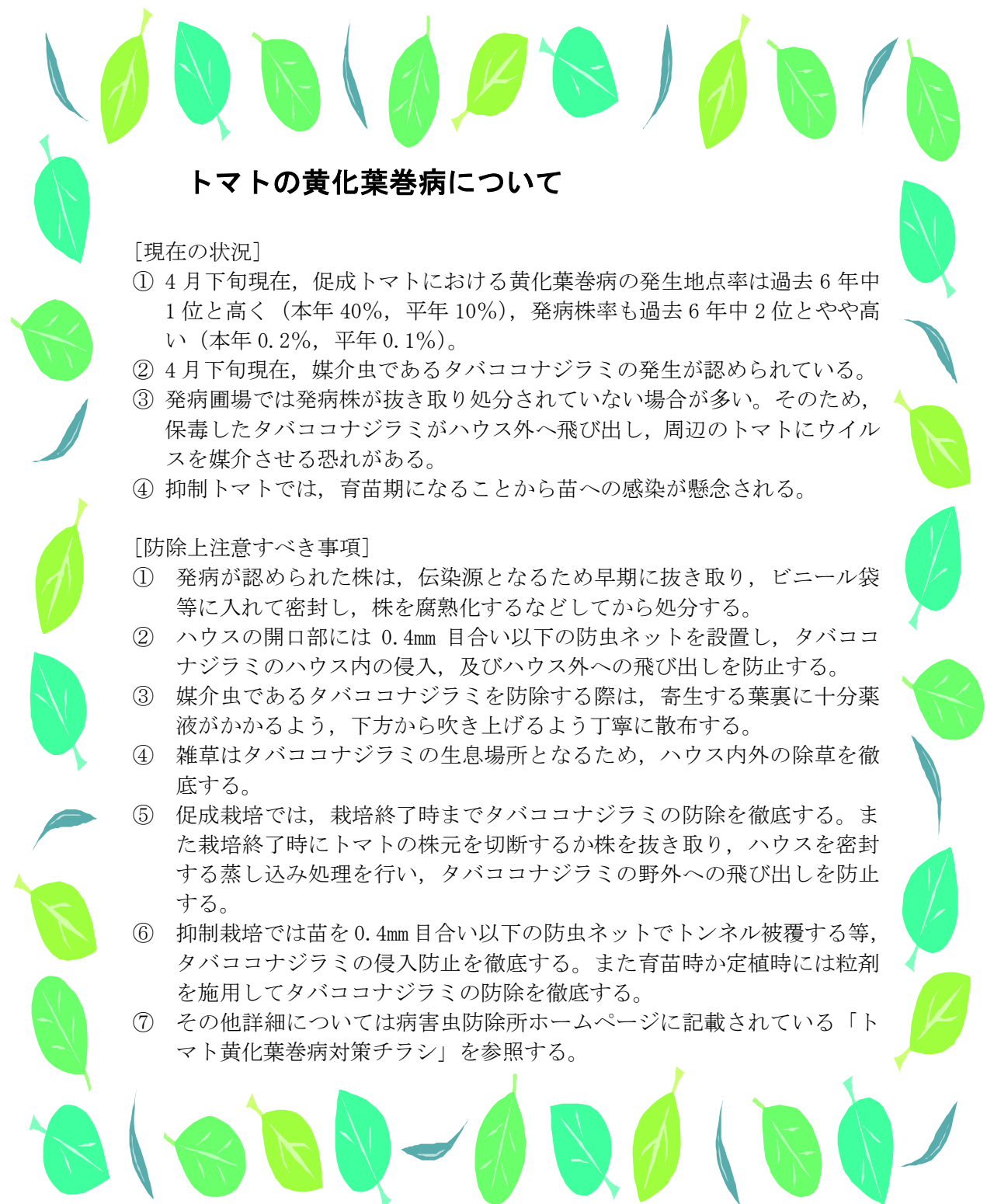
作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
促成ピーマン	斑点病	発生量：やや多い	○月下旬現在、平年よりやや多い発生である。

現在の発生状況等を中心に記載します。その他、特記事項や防除対策について簡潔に記載する場合があります。

2. 予報等に記載される用語について

病害虫防除所が発表する予報等の病害虫に関する情報では、いくつか特徴的な用語を使用しています。ここではそれらのうち、主に記載される用語について簡単に解説します。

- **県予察圃**：農業総合センター農業研究所と園芸研究所に設置している圃場です。無防除圃場等における病害虫の発生状況を調査しています。
- **予察灯**：夜間に電球を点灯し、光に集まる虫を毎日誘殺する装置です。害虫の発生状況を把握するために利用しています。
- **フェロモントラップ**：主に性フェロモンを誘引源として、対象害虫を誘殺する装置です。対象害虫の発生状況を把握するために利用しています。
- **発病度、被害度**：調査圃場における対象病害虫の発生状況等を客観的に把握するため、調査株を被害程度別に区分・集計して数値化したものです。
- **発生地点率**：当所の圃場巡回調査で、対象病害虫の発生や被害が見られた圃場の割合です。
- **平年値**：過去10年間の調査データの平均値。



トマトの黄化葉巻病について

[現在の状況]

- ① 4月下旬現在、促成トマトにおける黄化葉巻病の発生地点率は過去6年中1位と高く（本年40%、平年10%）、発病株率も過去6年中2位とやや高い（本年0.2%、平年0.1%）。
- ② 4月下旬現在、媒介虫であるタバココナジラミの発生が認められている。
- ③ 発病圃場では発病株が抜き取り処分されていない場合が多い。そのため、保毒したタバココナジラミがハウス外へ飛び出し、周辺のトマトにウイルスを媒介させる恐れがある。
- ④ 抑制トマトでは、育苗期になることから苗への感染が懸念される。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発病が認められた株は、伝染源となるため早期に抜き取り、ビニール袋等に入れて密封し、株を腐熟化するなどしてから処分する。
- ② ハウスの開口部には0.4mm目合い以下の防虫ネットを設置し、タバココナジラミのハウス内の侵入、及びハウス外への飛び出しを防止する。
- ③ 媒介虫であるタバココナジラミを防除する際は、寄生する葉裏に十分薬液がかかるよう、下方から吹き上げるよう丁寧に散布する。
- ④ 雑草はタバココナジラミの生息場所となるため、ハウス内外の除草を徹底する。
- ⑤ 促成栽培では、栽培終了時までタバココナジラミの防除を徹底する。また栽培終了時にトマトの株元を切断するか株を抜き取り、ハウスを密封する蒸し込み処理を行い、タバココナジラミの野外への飛び出しを防止する。
- ⑥ 抑制栽培では苗を0.4mm目合い以下の防虫ネットでトンネル被覆する等、タバココナジラミの侵入防止を徹底する。また育苗時か定植時には粒剤を施用してタバココナジラミの防除を徹底する。
- ⑦ その他詳細については病害虫防除所ホームページに記載されている「トマト黄化葉巻病対策チラシ」を参照する。

II. 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 4月21日から5月20日)

気象庁 (4月20日 発表)

<向こう 1 か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率 (%) >

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	20	40	40
	降水量	関東甲信全域	20	30	50
	日照時間	関東甲信全域	40	40	20

[概要]

天気は数日の周期で変わるでしょう。期間のはじめは平年に比べ晴れの日が少なく、その後は平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

<1 週目の予報> 4月21日(土曜日)から4月27日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率 40%

<2 週目の予報> 4月28日(土曜日)から5月4日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 50%

<3 週目から4 週目の予報> 5月5日(土曜日)から5月18日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率 40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し、適用作物, 使用方法, 注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には, 周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず, 良く洗浄しましょう。

平成25年度茨城県立農業大学校学生募集

専修学校であり大学への編入学の受験資格が得られます。

■ 募集人員等

区分	学 科 名	募集人員	受験資格	修業 年限	専 攻 コ ー ス
学 科	農 学 科	40名	高校等を卒業した者又は平成25年3月に卒業若しくは修了見込みの者	2年	普通作・露地野菜・果樹
	畜 産 学 科	10		2年	
	園 芸 学 科	30		2年	施設野菜・花き
研 究 科		10	農業大学校卒又は短大等卒以上若しくは卒業見込みの者	2年	作物・園芸・畜産

■ 願書受付・入学試験

試験区分	願 書 受 付 期 間	試 験 日	選抜方法
推薦入試 (各学科)	平成24年10月2日(火)～10月17日(水)	平成24年10月26日(金)	小論文 口述試験 (個別面接)
一 般 入 試 (各学科)	前期 平成24年12月12日(水)～1月11日(金)	平成25年2月1日(金)	筆記試験 口述試験 (個別面接)
	後期 平成25年2月8日(金)～2月26日(火)	平成25年3月5日(火)	
研 究 科 一般入試	平成24年10月2日(火)～10月17日(水)	平成24年10月26日(金)	筆記試験 口述試験 (個別面接)

■ 授業料等

- ・入学試験手数料(2,200円), 入学料(5,650円), 授業料(年118,800円), 自治会費他
- ・学科1年生は全寮制(1人食費月額約29,000円), 学科2年生及び研究科は希望入寮制

■ 問い合わせ先

〒311-3116

東茨城郡茨城町長岡 4070-186

茨城県立農業大学校

入試事務局

TEL029-292-0010

■ 農大ホームページ <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/nodai/>